

2022年4月25日(月)

## ① 日本のメンタリティ

日本は前例のない危機に立ちすくみがち。  
大きな問題から目を背けがち。  
最悪の事態に目をつむり、必要に迫られるまで動こうとしない。

⇒ 4月28日の日銀金融政策決定会合後にどのような発表があるのか…

現預金と円資産に対する信頼性が本格的に失われようとしています。

1000兆円を超える個人が保有する現預金が、  
ついに本格的に海外や GOLDに向かうことになるのではないのでしょうか。

1%動いても10兆円規模ですから為替や GOLD には相当なインパクトがあると思います。

## ② 肥料と穀物

ロシアと侵攻に協力したベラルーシは化学肥料の原料になるカリウムが豊富で、肥料輸出でも大きな存在だ。  
米調査機関の OEC によると 19 年の肥料の世界貿易 (666 億ドル=約 8 兆 5 千億円) のうち首位の ロシアは輸出全体の 13%、ベラルーシは 5% を占める。

「エネルギーと肥料、穀物価格は連動性を強めており、穀物の高値も長期化するおそれがある」

## ③ FOMC

FRB は 5月3~4日に開く米連邦公開市場委員会 (FOMC) で追加利上げに加え、保有資産の縮小開始を決定する見通し。

利上げ幅が通常 0.25% の倍にあたる 0.50% となれば 2000 年 5 月以来。

当時はナスダック指数が 1999 年夏から 00 年 3 月にかけて 2 倍になった IT (情報技術) バブル局面で、大幅利上げが崩壊の決定打となった。

FRB のパウエル議長は 21 日、5 月の会合で「0.5% の利上げを検討する」と述べた。

金利先物市場では 6月と7月の会合でも 0.50% 以上の利上げを織り込む動きがみられる。

⇒ 既視感があります。

IT バブル崩壊と同じような流れになると思います。

GW に為替や海外株価が大きく動く可能性が高いと思います。

#### ④ BEI

インフレ期待は抑制されていない。

期待インフレ率をはかる指標であるブレイク・イーブン・インフレ率(BEI)は米 10 年物が 21 日時点で 3.02%に上昇。

パウエル議長の大増利上げの示唆にもかかわらず上昇した。

FRB がインフレを抑制できないとの見方から

「スタグフレーション(景気停滞と高インフレの併存)懸念が強まった」(ゴールドマン・サックス)

⇒ 米 10 年国債利回り(2.9%) - BEI(3.02%) = 実質金利(-0.1%)

実質金利がマイナスの場合、GOLD は上昇しやすくなります

オーバーキル(過度な金融引き締めが引き起こす景気後退)の可能性が高まっています

#### ⑤ NASDAQ 主導の長期株安へ

危険シグナルは点灯している。

主要ハイテク株で構成するナスダック 100 株価指数をダウ工業株 30 種平均で割った比率は昨年末、22 年ぶりに 0.45 倍を上回った後、低下局面に入っている。

IT バブル時も同じ 0.45 倍で下げに転じ、ナスダック指数主導の長期の株安局面に突入した。

歴史が繰り返される可能性は否定できない。